

平成29年度「みやぎきの教育に関する調査」集計結果の概要について

平成30年4月25日
教育庁教育政策課

1 調査目的

「第二次宮崎県教育振興基本計画」の推進に関して、県教育委員会の施策及びその推進のあり方の改善を図るために、学校、家庭、地域、児童・生徒、教職員の現状や意識を把握する。

2 調査について

(1) 調査対象等

調査種類	調査対象	回答者数
学校向け	全ての市町村立幼稚園、小・中学校及び、県立中学校・中等教育学校・高等学校・特別支援学校	424校
家庭向け (抽出調査)	学校向け調査対象校の保護者（1校あたり3人程度）	1,222名
地域向け (抽出調査)	学校向け調査対象校の地域住民（1校あたり3人程度） ※ 県立中学校は附属する高等学校を含む	1,233名
児童・生徒向け (抽出調査)	抽出校（52校）の小学校5年生・特別支援学校小学部5年生（1校あたり1クラス）	1,173名
	抽出校（49校）の中学校2年生・特別支援学校中等部2年生（1校あたり1クラス）	1,160名
	抽出校（37校）の高等学校2年生・特別支援学校高等部2年生（1校あたり1クラス）	1,160名
教職員向け (抽出調査)	学校向け調査対象校（幼稚園を除く）の教職員（1校あたり4人程度）	1,303名

(2) 調査方法

- ・ 学校に調査用紙を送付して実施
- ・ 家庭、地域、児童・生徒、教職員には学校が依頼して実施

(3) 調査期間

平成30年1月24日～平成30年2月27日

3 調査の概要

(1) 学校向け調査について

問6 学力向上について、県教育委員会が推進している「4つのチェックポイント」を活用した授業改善の取組を行っているとした学校の割合（「積極的に取り組んでいる」「ある程度取り組んでいる」の合計）は100%で、全ての学校が取組を行っている。

（平成29年度調査からの設問）

問7 校内研修において「全国学力・学習状況調査」及び「みやぎき小中学校学力・意識調査」の問題や結果資料を分析・活用しているとした学校の割合（「十分分析・活用している」「ある程度分析・活用している」の合計）は100%で、全ての学校が取組を行っている。

問26 ICTを活用した主体的・対話的で深い学びを実施する上での課題として回答された割合が上位の項目

※複数回答

項目	割合
職員のICT活用能力に課題がある	53.2%
ICT機器に課題がある	51.5%
通信環境に課題がある	47.6%

（平成29年度調査からの設問）

(2) 家庭向け調査について

問3 子どもの生活習慣づくりの取組（早寝・早起き・朝ご飯等）を通して、子どもとの会話が増えたり、子どもが規則正しく生活できていると感じていると答えた保護者の割合（「そう感じる」「ある程度そう感じる」の合計）は94.6%（前年度88.4%）で、前年度から6.2ポイント上昇した。

問4 身近に、みやざきサポートプログラムによる講座等、家庭教育に関する講座や研修会等の学習する機会があると答えた保護者の割合（「よくある」「ある程度ある」の合計）は54.8%（前年度37.9%）で、前年度から16.9ポイント上昇した。

問6 「弁当の日」の取組は、子どもの食に対する考え方や行動の変化（食への関心が高まる、感謝の心が生まれる、食事の準備を手伝うようになる等）につながっていると答えた保護者の割合（「そう思う」「ある程度そう思う」の合計）は80.9%であった。

（平成29年度調査からの設問）

(3) 地域向け調査について

問5 家庭教育は保護者がその役割を果たすとともに、地域住民や学校等にも家庭教育を支える役割があることを知っている地域住民の割合は85.9%であった。

（平成29年度調査からの設問）

問7 住んでいる地域の学校では、地域の意見も取り入れながら、地域と一緒に子どもを育てるための取組を進めていると答えた地域住民の割合（「取り組んでいる」「ある程度取り組んでいる」）は90.2%で、高い割合である。

（平成29年度調査からの設問）

(4) 児童・生徒向け調査について

問2 困っている人を助けたい、人に親切にしたいと思っていると答えた割合（「とてもあてはまる」「ある程度あてはまる」の合計）は、小・中・高全体で95.5%（前年度94.8%）で、前年度から0.7ポイント上昇した。校種別では、小学生96.0%（前年度94.2%）、中学生95.7%（前年度94.9%）、高校生94.8%（前年度95.3%）となり、小・中では前年度に比べて上昇した。

問6 「人権が尊重されている学校になっている」と思うと答えた割合（「とてもあてはまる」「ある程度あてはまる」の合計）は、小・中・高全体で82.4%（前年80.8%）で、前年度より1.6ポイント上昇した。校種別では、小学生86.7%（前年度85.4%）、中学生79.8%（前年度78.6%）、高校生80.5%（前年度78.7%）となり、小・中・高とも前年度に比べて上昇した。

問11 将来の夢や目標を持って自分の職業や生き方について考えていると答えた割合（「とてもあてはまる」「ある程度あてはまる」の合計）は、小・中・高全体で83.7%（前年度80.8%）で、前年度より2.9ポイント上昇した。校種別では、小学生86.8%（前年度85.1%）、中学生82.2%（前年度78.7%）、高校生82.2%（前年度78.8%）となり、小・中・高とも前年度に比べて上昇した。

(5) 教職員向け調査について

問1 教師の資質や姿勢で特に大事だと思うと回答された割合が上位の項目

※複数回答

項目	割合
子どものよい面を伸ばし、やる気を出させる	72.8%
よくわかる教え方をする	55.7%
悪いことをしたらきちんと叱る	52.3%

問2 仕事上の不安や悩みとして回答された割合が上位の項目

※複数回答

項目	割合
仕事量	34.1%
授業以外の校務	30.8%
学習指導	25.2%